

□議員名：河野朋子

## 1 事業評価について

論点	若者交流事業について、27年度は事業化されていないが、その理由は。
回答	総務委員会での所管事務調査や質疑、12月の一般質問などを受けて、このまま改善を図って事業を実施することは適当ではないとの認識に至り、平成27年度当初予算への計上は見合わせる事となった。

論点	休止とした間、この事業の改善などを具体的にどの部署で検討していくのか。
回答	これまでは企画課がその事務を行っていたが、事務取り扱いの部署の変更や、どういう内容にするか、どこに目標値を設定するかといったことも含めて十分に検討した上で、新たな事業案をまとめた段階で改めて進めていきたい。

## 2 山口東京理科大の公立化について

論点	最終的に公立化の判断をした時期はいつごろか。
回答	関係省庁及び学校法人東京理科大学との大筋の調整が終了したのは昨年11月下旬で、その後、学校法人とさらに細かな微調整を行い、基本協定書の内容について合意したのは12月中旬である。

論点	市の将来を左右する重要な問題を短期間で判断したのではないか。もう少し時間をかけてじっくりと検討する選択肢はなかったのか。
回答	大学から「公立化の要望を受け入れられなければ、来年度からの廃校もやむなし」と言われたので、早急な検討を必要としていたということである。

論点	この間、市長とその成長戦略室長の2人だけで動いていたようだが、市役所全体の組織としての検討はされなかったのか。
回答	検討していく段階で一番危惧したのは「大学の公立法法人化を打診している。もし市が引き受けなければ廃校になるかもしれない。」とい

	<p>ったうわさが流れることであり、そのために、できるだけ携わる人間を少なくして検討した。</p>
--	---

<p>論点</p>	<p>短期間で一部で決めた感が強い。市民にきちんと説明したり、声を聞くという場が必要と思うが、そのような考えは市長にはないのか。</p>
<p>回答</p>	<p>それは政治手法の違いである。反対が前提だからそういう質問が出てくる。いろんな機会を通じて、市の一般会計から1円たりとも大学の会計に借りることはあり得ないということを、いろいろな場で言っている。</p>

<p>論点</p>	<p>県に薬学部の設置を要望してきたが、これまで実現しなかったのか、この理由については調査をしているのか。</p>
<p>回答</p>	<p>調査はしていない。</p>

<p>論点</p>	<p>当初議会への定款等の議案提出は9月とのことだったが、なぜ6月に早まったのか。</p>
<p>回答</p>	<p>県、文部科学省等と協議をした結果、準備が整えばできるだけ申請は早い方が認可する側も都合がいいということのことなので、少し早めて議会へ上程したいと考えている。</p>

<p>論点</p>	<p>国立社会保障人口問題研究所のデータによると、30年後には18歳人口が40%近く減少するが、そういった分析もしたのか。</p>
<p>回答</p>	<p>一般的な大学入学世代が減っても、定員を割るということはないと想定をしている。現在、全国にある公立大学、定員を割れているところは一つもない。</p>

<p>論点</p>	<p>議会がしっかりと調査したり、検討する時間が6月で本当にあるのか不安である。もう少し延ばすことはできないのか。</p>
<p>回答</p>	<p>6月に上程する議案は2つで、一つは現在の山口東京理科大学の全ての財産を市が全部寄附を受け出資することについての承認、もう一つは定款についてである。どちらもそう時間がかかるものではない。</p>